



浦和レッズ

『このゆびとまれっず!』(休眠預金等活用事業) 1/2

浦和レッズのホームタウン:さいたま市には130万人もの人たちが暮らし、多くの課題や悩みも人それぞれの生活の中で抱えています。地域にある課題は、浦和レッズの課題そのものです。何とかしたい! でも、その課題は「浦和レッズ」や「ほかの誰か」だけで解決できるものではありません。同じ“おもい”を共有する仲間と“みんなで”解決していくものと考えています。浦和レッズは、多くの人に支えられ地域に根差すクラブとして、地域社会や地域の人たちのために「このゆびとまれっ!」とゆびを高く掲げることにしました。



活動場所 埼玉スタジアム2002、さいたま市内を中心とした子ども食堂



協働者

企業、行政

協働者名

埼玉県子ども食堂ネットワーク、スポンサー企業(15社)、埼玉県(少子政策課)、FC ONE TOP(アンプティサッカー)



協働者の声 じおんじ子ども食堂代表/山角 誓子 氏

コロナ禍でいろいろな体験が少なくなっている子どもたちですが、物資の支援はもちろんですが、ハートフルケアやレディア(マスコット)とのふれあいのように『体験・経験の支援』をしてくださった浦和レッズさんをはじめとする関係者の方々には本当に感謝・感動しています。



活動詳細情報

1 [公式サイト\(特設ページ\)](#)



カテゴリ(SDGs)/取り組みテーマ





浦和レッズ

『このゆびとまれっず!』(休眠預金等活用事業) 2/2

Story

◆活動名称とロゴマークに込めた思い

この活動には仲間が必要です。仲間を集めるためには呼び掛けが必要です。その掛け声といえば、昔からある合言葉「このゆびと～まれ」。浦和レッズが呼びかけるので『このゆびとまれっず!』を活動名称としました。

ロゴマークにある「てんとう虫」は“幸運のシンボル”とされ、レッズカラーのてんとう虫がRedsを描きながら指にとまる姿は「私たちの願いが叶う瞬間」を、「リストバンド」はクラブに関わる全ての人たちと共に活動していくという願いを、「このゆびとまれっず!」のポップな書体は親しみやすさと気軽さ、



カラーリングはこの活動が目指すSDGsのゴール色を表現しています。

◆具体的なアクション【ハートフルケア】と【REDS Santa(レッズサンタ)】

今回はコロナ禍で深刻化した子ども食堂を利用する家庭や子どもたちの課題解決・緩和を目指して、2つのアクションを実施しました。

クラブの人材やノウハウ、ネットワークを活用した【ハートフルケア】では、ハートフルクラブ・落合弘キャプテンの講話、アンプティサッカー体験、試合観戦などを通じ、子どもたちの笑顔創出とストレス緩和、家族での非日常体験・思い出づくりを支援しました。

クリスマスの季節に企業・地域・クラブ・選手などから募った物資を届ける【REDS Santa】では、200箱もの段ボールに詰められた寄贈品の数々(子どもたちへのプレゼント約800人分と子ども食堂への物品27か所分)をお届けし、感謝や御礼の言葉を多数頂戴しました。



◆このゆびを、さらに大きな声で、空高く
 今回、休眠預金を活用し、ある程度自走できそうな枠組み・仕組みを作ることができましたが、まだまだ多くの仲間の力が必要です。この活動の輪を広げ、地域に笑顔と幸せを届け続けるために、私たちはこれからも「このゆび」を、さらに大きな声で、空高く掲げていきたいと考えています。